

(四) 関係公文書等

① 国内措置関係

沖繩県の郡編成に関する勅令

明治二十九年三月五日第十三号  
内閣官房総務課保管

朕沖繩県ノ郡編成ニ関スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十九年三月五日

内閣総理大臣  
内務大臣

勅令第十三号

第一条 那覇首里区ノ区域ヲ除ク外沖繩県ヲ尽シテ左ノ五郡トス

島尻郡 島尻各間切、久米島、慶良間諸島、渡名喜島、粟國島、伊平屋諸島、島島及大東島

中頭郡 中頭各間切

国頭郡 国頭各間切及伊江島

宮古郡 宮古諸島

八重山郡 八重山諸島

第二条 郡ノ境界若クハ名称ヲ変更スルコトヲ要求スルトキハ内務大臣之ヲ定ム

付 則  
第三条 本令施行ノ時期ハ内務大臣之ヲ定ム

魚釣島外二島ノ所轄決定ニ関シ伺ノ件

甲第一号

管下八重山群島ノ内石垣島ニ接近セル無人島魚釣島外二島ノ義ニ付十八年十一月五日第三百八十四号伺ニ対シ同年十二月五日付ヲ以テ御指令ノ次第モ有之候處右ハ無人島ナルヨリ是迄別ニ所轄ヲモ不決定其儘ニ致置候處昨今ニ至リ水産取締ノ必要ヨリ所轄ヲ被相定度旨八重山島役所ヨリ伺出候次第モ有之旁此際管下八重山島役所々轄ニ相定度此段相伺候也

明治廿三年一月十三日

知 事  
内務大臣宛

標杭建設ニ関スル件

秘別第一三三三号

別紙標杭建設ニ関スル件閣議提出ス

明治廿八年一月十二日

内閣総理大臣伯爵 伊 藤 博文 殿  
内務大臣子爵 野 村 靖 圃  
秘別第一三三三号

標杭建設ニ関スル件

沖繩県下八重山群島ノ北西ニ位スル久場島魚釣島ハ從來無人島ナ

レトモ近來ニ至リ該島ヘ向ケ漁業等ヲ試ムル者有之之レカ取締ヲ要スルヲ以テ同県ノ所轄トシ標杭建設致度旨同県知事ヨリ上申有之右ハ同県ノ所轄ト認ムルニ依リ上申ノ通標杭ヲ建設セシメントス  
右閣議ヲ請フ  
明治廿八年一月十二日

内務大臣子爵 野 村 靖 圃

明治廿八年一月十四日

内閣総理大臣 花押

内閣書記官 花押

外務大臣 花押	大蔵大臣 花押	海軍大臣 花押	文部大臣 花押	逓信大臣 花押
内務大臣 花押	陸軍大臣 花押	司法大臣 花押	農商務大臣 花押	

別紙

内務大臣請議沖繩県下八重山群島ノ北西ニ位スル久場島魚釣島ト称スル無人島ヘ向ケ近來漁業等ヲ試ムルモノ有之為メ取締ヲ要スルニ付テハ同島ノ儀ハ沖繩県ノ所轄ト認ムルヲ以テ標杭建設ノ儀全県知事上申ノ通許可スヘシトノ件ハ別ニ差支モ無之ニ付請議ノ通ニテ然ルヘシ

指 令 案

標杭建設ニ関スル件請議ノ通

明治廿八年一月廿一日 ㊦

沖繩県ト清国トノ間ニ散在スル無人島ノ儀ニ関シ意見問合ノ件

官房甲第三十八号  
沖繩県ト清国トノ間ニ散在セル無人島取調ノ儀ニ付別紙甲号ノ通同県令ヨリ上申ニ付即チ別紙乙号ノ如ク其筋ハ相同度存候就テハ御意見承知致度此段及御照会候也  
明治十八年十月九日

外務卿伯爵 井 上 馨 殿  
内務卿伯爵 山 県 有 朋  
追テ別紙取調書類ハ副書無之ニ付御回答ノ節御返付相成度候也

別紙乙号

太政官上申案

沖繩県ト清国福州トノ間ニ散在セル無人島久米赤島外二島取調ノ儀ニ付別紙之通同県令ヨリ上申候処右諸島ノ儀ハ中山伝信録ニ記載セル島嶼ト同一ノ如ク候ヘ共只針路ノ方向ヲ取リタル迄ニテ別ニ清国所屬ノ証跡ハ少シモ相見ヘ不申且ツ名称ノ如キハ我ト彼ト各其唱フル所ヲ異ニシ沖繩所轄ノ宮古八重山等ニ接近シタル無人ノ島嶼ニ有之候ヘハ同県ニ於テ实地踏ノ上圍標相建候儀差支無之ト相考候間至急何分ノ御詮議相成候様致度別紙相添此段相伺候也

内務卿

太政大臣宛

別紙甲号

第三百十五号

久米赤島外二島取調ノ儀ニ付上申

本県ト清国福州間ニ散在セル無人島取調ノ儀ニ付先般在京森本県大書記官ヘ御内命相成候趣ニ依リ取調致候処概略別紙ノ通ニ有之候抑

モ久米赤嶋久嶋嶋及魚釣島ハ古来本県ニ於テ称スル所ノ名ニシテ而  
モ本県所轄ノ久米宮古八重山等ノ群島ニ接近シタル無人ノ島嶼ニ付  
沖繩県下ニ属セラルルモ敢テ故障有之聞敷ト被存候得共過日御届及  
侯大東嶋 本県ト小笠原トハ地勢相違中山伝信録ニ記載セル釣魚台黄  
尾嶼赤尾嶼ト同一ナルモノニ無之哉ノ疑ナキ能ハス果シテ同一ナル  
トキハ既ニ清国モ旧中山王ヲ冊封スル使船ノ詳悉セルノミナラス夫  
々名称ヲモ附シ琉球航海ノ目標ト為セシ事明カナリ依テ今回大東島  
同様踏査直ニ國標取建候モ如何ト懸念仕候間來月中旬兩先嶋ヘ向  
ケ出帆ノ雁汽船出雲丸ノ帰便ヲ以テ不取敢実地踏査可及御届候案國  
標取建等ノ義尚御指揮ヲ請度此段兼テ上申候也

明治十八年九月二十二日

沖繩県令 西村 捨 三

内務卿伯爵 山 県 有 朋 殿

沖繩県ト清国トノ間ニ散在スル無人島ニ國標建

設ハ延期スル方然ルヘキ旨回答ノ件

十月廿一日發遣

親展第三十八号

内務卿伯爵 山 県 有 朋 殿

外務卿伯爵 井 上 馨 殿

沖繩県ト清国福州トノ間ニ散在セル無人嶋久米赤島外ニ嶋沖繩県ニ  
於テ実地踏査ノ上國標建設ノ儀本月九日附甲第三十八号ヲ以テ御協  
議ノ趣致熟考候処右嶋嶼ノ儀ハ清国々境ニモ接近致候儀ニ踏査ヲ遂  
ケ候大東嶋ニ比スレハ周回モ小サキ趣ニ相見ヘ殊ニ清国ニハ其嶋名

(下ケ札)

(朱書)

降屬品ニ函添付ス

(附屬書)

管下無人嶋ノ儀ニ付兼テ御下命ノ次第モ有之取調為致候処今般別  
紙ノ通復命書差出候該嶋國標建設ノ儀ハ嘗テ伺書ノ通清国ト關係ナ  
キニシモアラス万一不都合ヲ生シ候テハ不相濟候ニ付如何取計可然  
哉至急何分ノ御指揮奉仰候也

明治十八年十一月二十四日

沖繩県令 西村 捨 三

内務卿伯爵 山 県 有 朋 殿

無人島ヘ國標建設ノ儀ニ就キ沖繩県令ヨリ伺出

ニ対スル指令ニ関シ回答ノ件

十二月四日發遣

内務卿伯爵 山 県 有 朋 殿

外務卿伯爵 井 上 馨 殿

沖繩県下無人島ヘ國標建設之儀ニ付沖繩県令ヨリ伺出ニ対スル指令  
ノ儀ニ関シ去ル十一月三十日附ヲ以テ右御指令案相添御照會ノ趣致  
承知候右ハ当省ニ於テモ御同見ニ候間別紙伺書ニ該案指令文記載且  
捺印ノ上附屬書類共及御還付候也

官有地拝借御願

沖繩県琉球郡那霸西村二十三番地

平民 古賀 辰四郎

モ附シ有之候ニ就テハ近時清国新聞紙等ニモ我政府ニ於テ台湾近傍  
清国所屬ノ嶋嶼ヲ占拠セシ等ノ風説ヲ掲載シ我國ニ對シテ猜疑ヲ抱  
キ頻ニ清政府ノ注意ヲ促シ候モノモ有之候際ニ付此際遽ニ公然國標  
ヲ建設スル等ノ処置有之候テハ清国ノ疑惑ヲ招キ候間差向実地ヲ  
踏査セシメ港灣ノ形状并ニ土地物産開拓見込有無詳細報告セシムル  
ノミニ止メ國標ヲ建テ開拓等ニ着手スルハ他日ノ機会ニ讓候方可然  
存候且曩ニ踏査セシ大東島ノ事并ニ今回踏査ノ事共官報并ニ新聞紙  
ニ掲載不相成候方可然存候間夫々御注意相成置候儀致度候右回答旁  
拙官意見申進候也

追テ御差越ノ書類及御返付候御落手相成度候也

無人島ヘ國標建設ニ関シ沖繩県令ヘノ指令案協

議ノ件

秘第二一八号ノ二

別紙之通無人島ヘ國標建設之儀ニ沖繩県令ヨリ伺出候処右ハ予メ御  
意見ノ趣モ有之候ニ付左按之通及指令度候該按未書登載且御捺印之  
上附屬書類共御返却相成度此段及御照會候也

明治十八年十一月三十日

内務卿伯爵 山 県 有 朋 殿

外務卿伯爵 井 上 馨 殿

指令 按

書面同之趣目下建設ヲ要セサル儀ト可心得事

年 月 日

西 卿

私儀国内諸種ノ事業ノ日ニ月ニ隆盛ニ赴キ候制合ニ大洋中ニ國ヲ為  
ス國柄ナルニモ係ラス水産業ヲササルハ予テ憂ヒ居候次第ナレハ自  
ラ帆船ノ勞ヲ取リ明治十二年以降十五年ニ至ルマテ或ハ琉球ニ或ハ  
朝鮮ニ航シ専ラ海産物ノ探検ヲ致候以來今日マテ居ラ沖繩ニ定メ尚  
ホ其業ニ從事致居候更ニ業務擴張ノ目的ヲ以テ沖繩本島ノ正東ニ在  
ル無人島ニシテ魚介ノ群常ニ絶ヘサル大東島ニ組合員ヲ送り一方ニ  
於テハ農事ヲ勤メテ日常食料ノ窮乏ヲ防キ一方ニ於テ大ニ其地海  
産物ノ捕漁ヲ為サントシ巴ニ明治廿四年十一月廿日時ノ沖繩県知事  
丸岡莞爾氏ニ同島開墾ノ許可ヲ得タル次第ニ御座候是ヨリ以前明治  
十八年沖繩諸島ニ巡航シ舟ヲ八重山島ノ北方九拾海里ノ久場島ニ寄  
セ上陸致候処因ラスモ俗ニバカ島ト名ノル島ノ群集セルヲ発見致候  
止マリテ該島ノ此島ニ棲息スル有様ヲ探検仕候秋來リテ春ニ去リ  
巢ヲ營ムヲ以テ見レハ全ク此期間ハ其繁殖期ニシテ特ニ該島ヲ撰テ  
來ルモノナル事ハ毫モ疑無御座候予テバカ島ノ羽毛ハ歐米人ノ大ニ  
珍重スル処ト承リ居候間試ニ數羽ヲ射殺シ商品見本トシア其羽毛ヲ  
欧州諸國ニ輸送仕候頗ル好評ヲ得其注文マテ有之候是ニ依テ考ヘ  
候ニ右羽毛ハ美ニ海外輸出品トシテ大ニ価値アルモノト信セラレ申  
候尤モ輸出品トシテ海外ノ注文ニ応スルニ足ル數量ナルヤ否ヤヲモ  
探究仕候処捕獲ノ方法ニ因リテハ相当ノ斤量ニ於テ多年間輸出致候  
ニ差支無キ見込有之候以上ノ次第柄ニ付宜ニ其捕獲ニ從事致度考ニ  
テ候処甲乙ノ人々ニ聞知セラレ競フテ乱殺候様ノ事ニ立チ至ルベク  
自然多數間ニ分テテ輸出ノ業ヲ營ミ候ハ相互ノ利益ニアラス所謂  
此蜂共ニ窠ラレザル結果ニ成行キ可申恐有之候間バカ島羽毛輸出營  
業ノ目的ヲ以テ久場島全島ヲ拝借候様出願ニ可及ノ処右久場島ハ未